

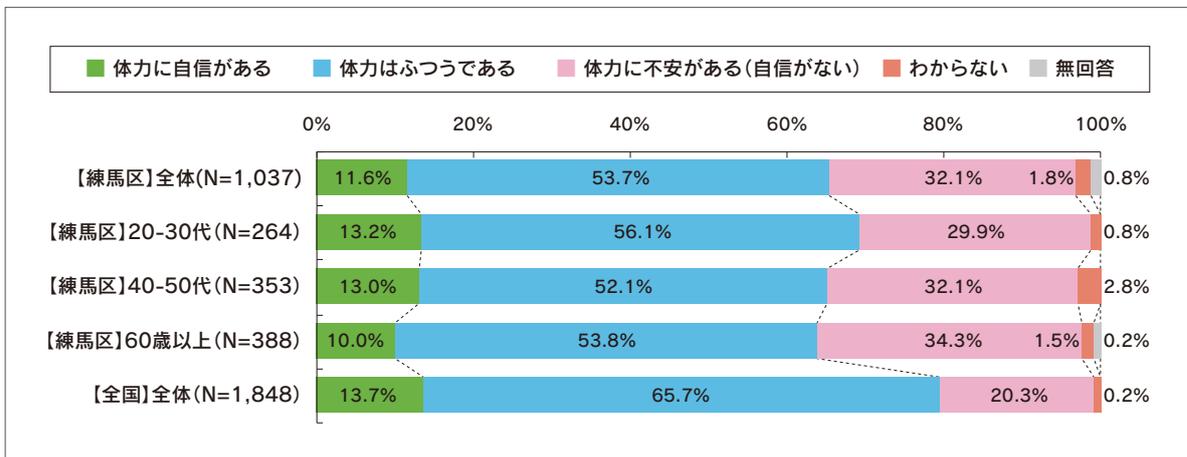
第3章 練馬区のスポーツの現状と課題

3.1 区民のスポーツ実施状況

(1) 区民の体力の現状

区民の32.1%が、自分の体力に不安があると感じています。これは、全国調査の20.3%よりも高い割合です。また、子供の体力低下が全国的にも課題となっていますが、区内の小学校5年生男子の体力テストの結果を東京都や全国の平均値と比較すると、「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」で、東京都、全国の平均を下回る結果となっています。

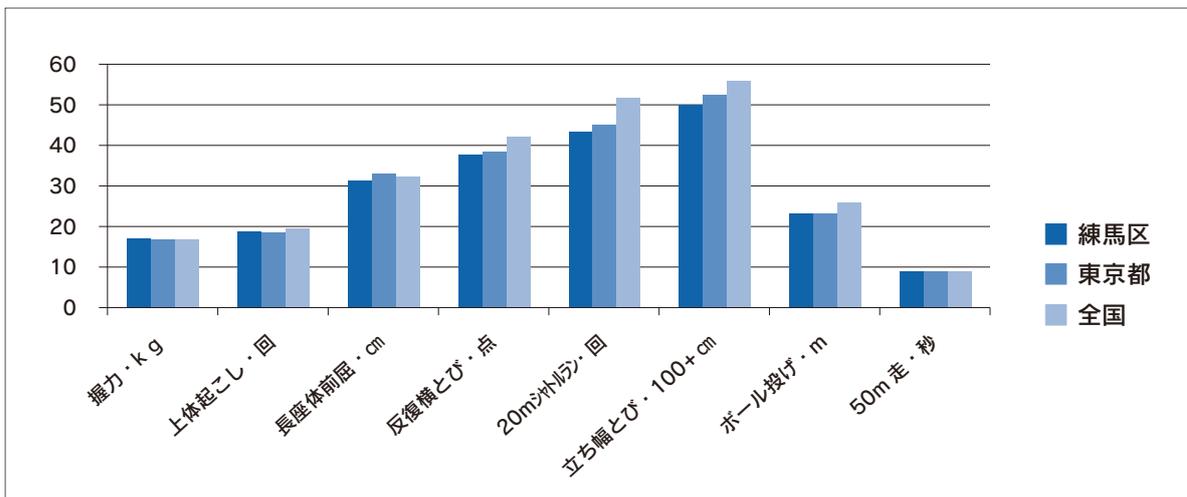
図表 3-1 体力の自信



出所：スポーツに関する区民意識意向調査（平成18年度）

* 全国のデータは、「体力・スポーツに関する世論調査」（内閣府大臣官房政府広報室、平成18年度）より

図表 3-2 体力テストの結果（小学校5年生・男子）



出所：体力調査報告書（練馬区、平成19年度）

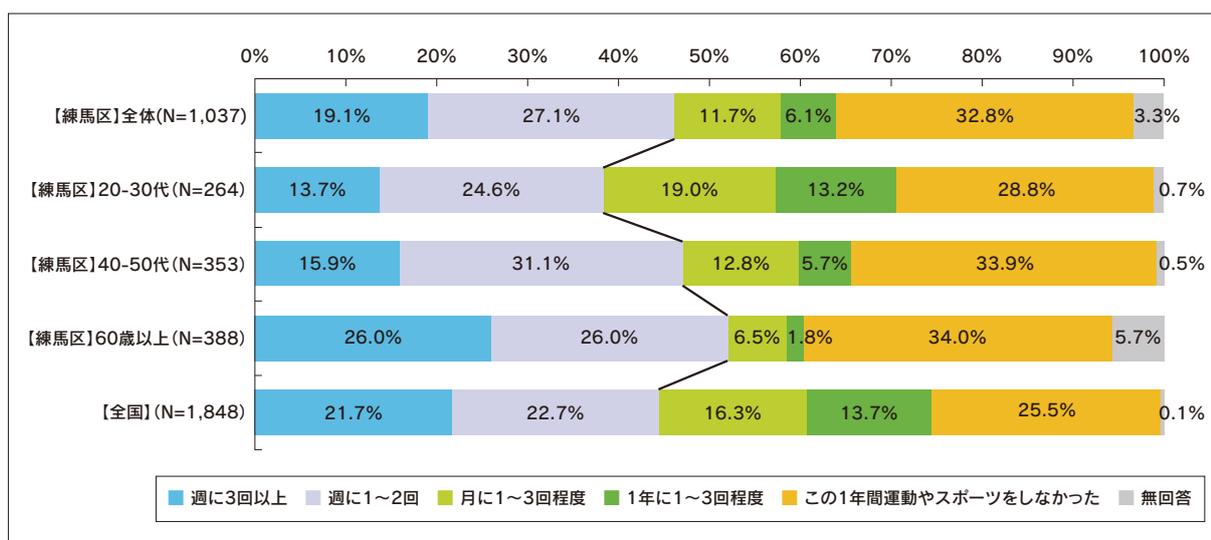
(2) スポーツ実施率

成人の区民で週1回以上、定期的にスポーツを行っている割合は、46.2%です。これは、全国の44.4%を上回っています。

年代別にみると、年齢が高くなるほど、週1回以上定期的にスポーツを実施する方の割合が増加します。また、40代以上は、20代、30代と比較して「この1年間運動やスポーツをしなかった」と回答する割合が増加します。一方、20代、30代については、40代以上と比較して、「1年間に1回以上スポーツをした」方の割合が70.5%と一番高くなっている一方で、「週1回以上定期的にスポーツを実施する」方の割合が38.3%と一番低くなっており、スポーツ活動が日常生活に定着していない可能性があります。

今後は、20代、30代の週1回以上のスポーツを実施している方の割合の向上と40代以上のスポーツをしない方の割合の減少が課題です。そのためには、区民の自主的・自立的なスポーツ活動、あるいは、スポーツ活動を区民の生活に定着させるためのきっかけづくり、仕組みづくりが必要です。

図表 3-3 区民のスポーツ実施率



出所：スポーツに関する区民意識意向調査（平成18年度）

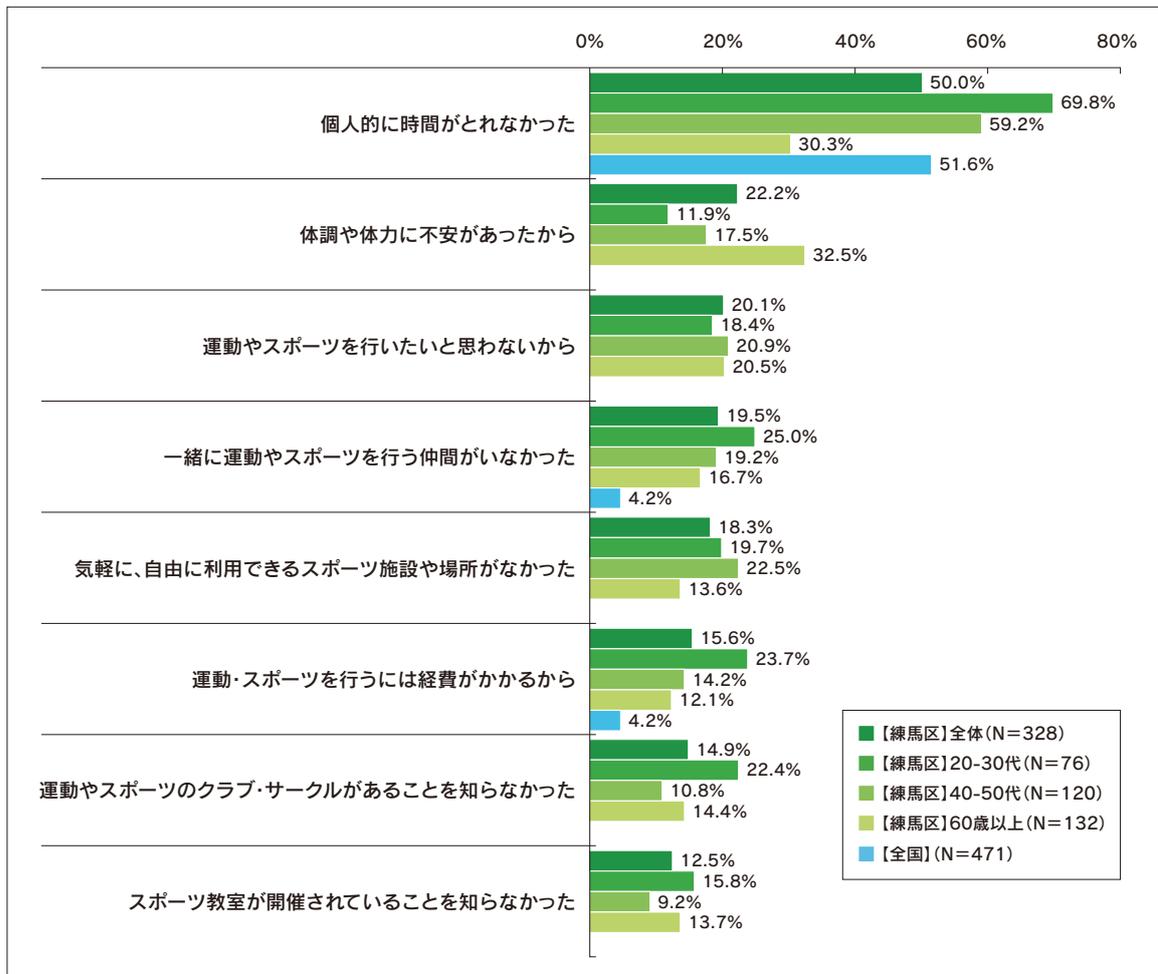
* 全国のデータは、「体力・スポーツに関する世論調査」（内閣府大臣官房政府広報室、平成18年度）より

(3) スポーツをしない理由

区民がスポーツをしない理由については、この1年間にスポーツを行わなかった区民のうち、50.0%の方が「個人的に時間が取れなかった」と回答しました。20代、30代では特に多く、69.8%が回答しました。全国調査でも、スポーツを行わない理由として、「時間がないから」が最も多くあげられています。次いで、「体調や体力に不安があったから」(22.2%)、「運動やスポーツを行いたいと思わないから」(20.1%)、「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいなかった」(19.5%)、「気軽に、自由に利用できるスポーツ施設や場所がなかった」(18.3%)等があげられています。

今後は、自ら進んでスポーツを行うよう意識啓発を行っていくことやスポーツ施設の機能を充実させること、健康増進や仲間づくりに役立つスポーツ事業を実施することなど多様なニーズに対応したスポーツ機会の創出が必要です。

図表 3-4 スポーツを行わなかった理由



出所：スポーツに関する区民意識意向調査（平成18年度）

*全国のデータは、「体力・スポーツに関する世論調査」（内閣府大臣官房政府広報室、平成18年度）より

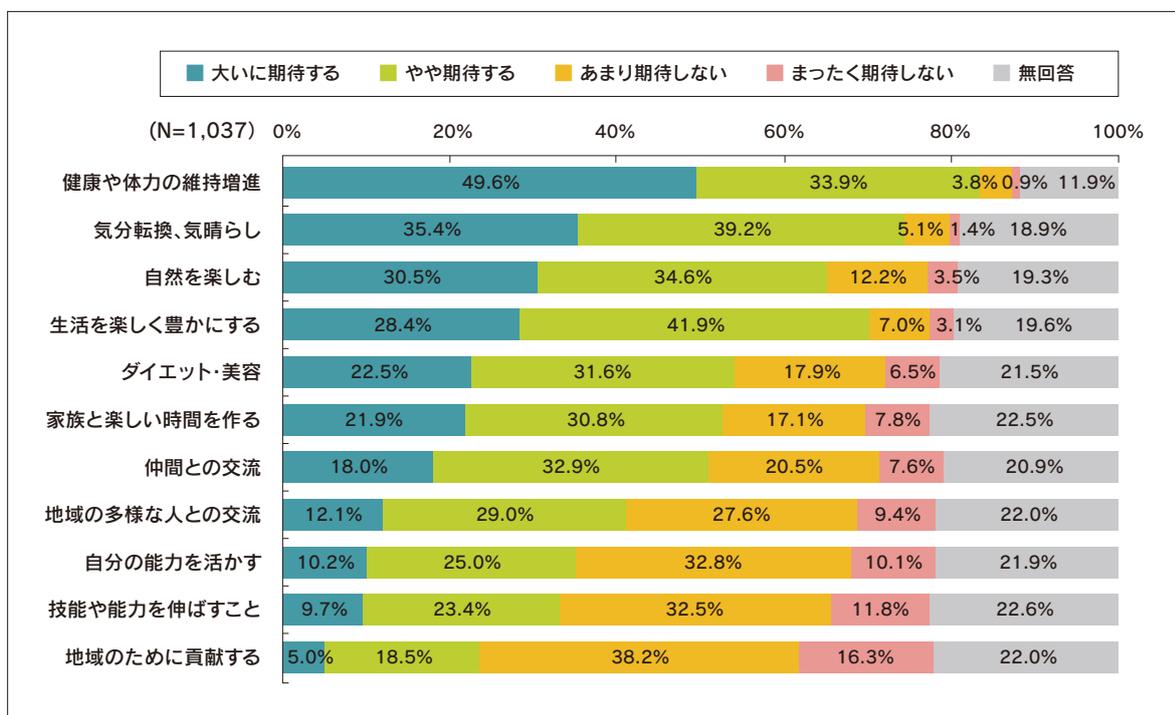
※比較可能な項目のみ、全国のデータを記載した。

(4) スポーツをする目的や期待

スポーツをする目的や期待については、「大いに期待する」の回答が最も多いのは、「健康や体力の維持増進」の49.6%でした。次いで、「気分転換、気晴らし」(35.4%)、「自然を楽しむ」(30.5%)、「生活を楽しく豊かにする」(28.4%)等に対してスポーツへの期待が高まっています。

また、「大いに期待する」、「やや期待する」をあわせると、多くの種目で50%以上の回答があることから、区民個々の目的に応じた、多様なスポーツの機会を提供することが必要です。

図表 3-5 スポーツ活動の目的や期待



出所：スポーツに関する区民意識意向調査（平成18年度）



3.2 スポーツ施設

(1) 区立スポーツ施設等の状況

区では、区民体育館7館構想に基づき、各地域に区民体育館を設置してきました（平成21年1月開設の中村南スポーツ交流センターが7館目となります）。区民体育館の他にも、総合運動場（1か所）、野球場（4か所）や庭球場（5か所）等の屋外施設や温水プール（6か所）といった区立スポーツ施設があります。平成19年度の区立スポーツ施設の利用者は約150万人でした。

また、区立スポーツ施設以外にも地域の子供の健全な遊び場や区民がスポーツをするための身近な場として、全区立小学校69校の校庭と、区立小・中学校36校の体育館を開放しています。加えて、夏休みの期間には、9校の区立小学校でプール開放を実施しています。平成19年度には、校庭、体育館、プールの開放で合わせて、約130万人の利用がありました。

さらに、区内には、テニス、スイミング、フィットネスクラブ等多くの民間のスポーツクラブがあり、それぞれが自前の施設を持って活動しています。

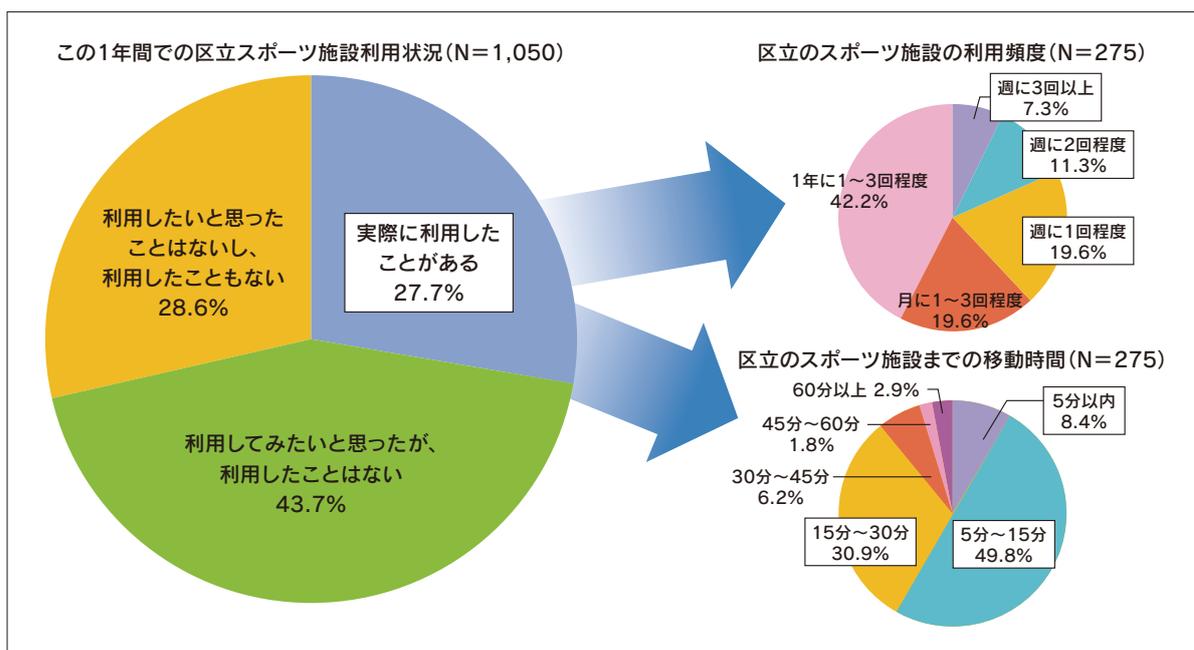
(2) 区立スポーツ施設利用者の現状

区立スポーツ施設を利用したことがある区民は、全体の27.7%でした。また、利用者の状況をみると週1回以上区立スポーツ施設を利用している区民が38.2%を占めました。

区立スポーツ施設を利用したことがない区民が全体の70%以上を占めることから、今後はより多くの区民に利用してもらうための施設・設備の整備や運営の工夫が必要です。

また、利用者のうち約90%の方が、区立スポーツ施設までの移動時間は30分以内であると回答しています。

図表 3-6 この1年間での区民の区立スポーツ施設利用状況



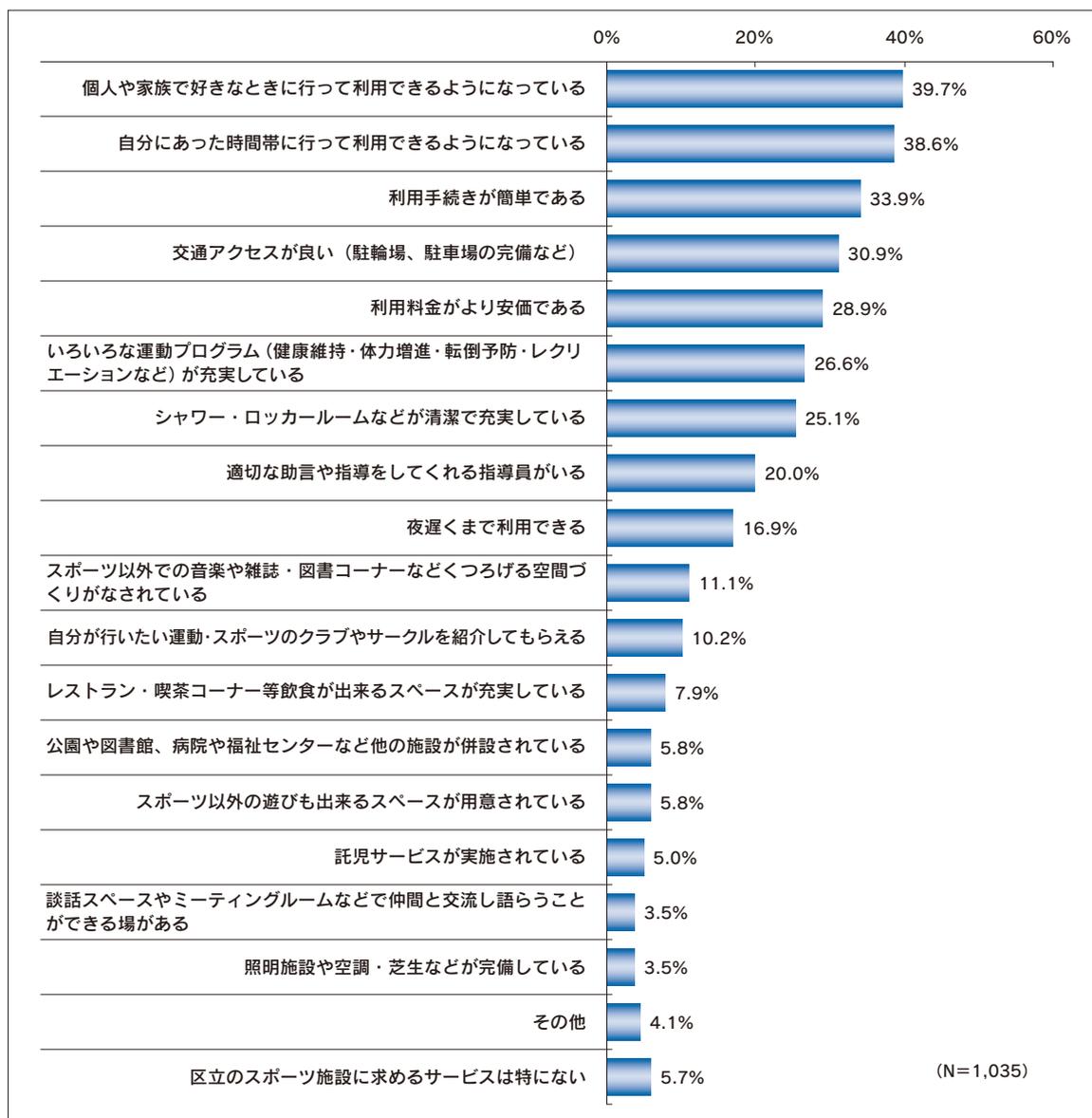
出所：スポーツ振興に関する施設環境調査（平成19年度）

(3) 区立スポーツ施設への期待

区立スポーツ施設にどのようなサービスや機能があれば利用したいかについて、最も多くあげられたのは「個人や家族で好きなときに行って利用できるようになっている」(39.7%)でした。次いで、「自分にあった時間帯に行って利用できるようになっている」(38.6%)、「利用手続きが簡単である」(33.9%)、「交通アクセスが良い」(30.9%)等があげられており、利用時間帯、手続き、アクセス等の利便性を高めることが求められています。

また、「レストラン・喫茶コーナー等飲食できるスペースが充実している」(7.9%)、「スポーツ以外の遊びも出来るスペースが用意されている」(5.8%)、「託児サービスが実施されている」(5.0%)、「談話スペースやミーティングルームなどで仲間と交流し語らうことができる場がある」(3.5%)等、人との交流を深めるための機能やサービスを充実することについても求められています。

図表 3-7 区立スポーツ施設に求めるサービス



出所：スポーツ振興に関する施設環境調査(平成19年度)

3.3 地域のスポーツクラブ・団体

(1) 区内のスポーツ関係団体

区内には様々なスポーツ関係団体があります。社団法人練馬区体育協会には33種の競技団体が加盟し、同協会の育成団体である練馬区スポーツ少年団には12種目のスポーツが登録しています。また、練馬区レクリエーション協会には、5種目のニュースポーツの団体が加盟し、各区民体育館には、総合型地域スポーツクラブが設立されています。また、練馬区教育委員会から委嘱を受けた体育指導委員（平成20年4月現在46名）で構成される練馬区体育指導委員会も存在します。

これらのスポーツ関係団体が区内で活発に活動し、スポーツ教室や講座、イベントの開催等、スポーツに触れる多くの機会を区民に提供しています。また、これらのスポーツ関係団体からは、スポーツ指導者が中学校に派遣され、部活動等の外部指導者としても活躍しています。

図表 3-8 社団法人練馬区体育協会の加盟団体

(平成20年4月現在)

■社団法人 練馬区体育協会		
練馬区軟式野球連盟	練馬区バドミントン協会	練馬区テニス協会
練馬区ソフトテニス連盟	練馬区バレーボール連盟	練馬区なぎなた連盟
練馬区バスケットボール連盟	練馬区アーチェリー協会	練馬区ゲートボール協会
練馬区卓球連盟	練馬区銃剣道連盟	練馬区馬術連盟
練馬区剣道連盟	練馬区ローラースケート連盟	練馬区ダンススポーツ連盟
練馬区柔道会	練馬区空手道連盟	練馬区キャッチバレーボール協会
練馬区弓道連盟	練馬区相撲連盟	練馬区ソフトボール協会
練馬区サッカー協会	練馬区ライフル射撃協会	練馬区トライアスロン連合
練馬区スキー協会	練馬区少林寺拳法連盟	練馬区合気道連盟
練馬区陸上競技協会	練馬区水泳連盟	練馬区ボウリング連盟
練馬区クレール射撃連盟	練馬区自転車連盟	練馬区新体操連盟

図表 3-9 練馬区スポーツ少年団に登録されているスポーツ

(平成20年4月現在)

■練馬区スポーツ少年団			
学童野球	ミニバスケットボール	陸上競技	ソフトボール
少年野球	剣道	なぎなた	卓球
少林寺拳法	サッカー	キャッチバレーボール	バドミントン

図表 3-10 練馬区レクリエーション協会の加盟団体

(平成20年4月現在)

■練馬区レクリエーション協会		
インディアカ協会	グラウンドゴルフ協会	スポーツチャンバラ協会
ターゲットバードゴルフ協会	ティーボール協会	

図表 3-11 区内の総合型地域スポーツクラブ

(平成21年2月現在)

名 称	設立	概 要
NPO法人 コミュニティネットSSC大泉	H14.8	大泉学園町体育館を拠点とし、平成19年度の会員数は841名。「スポーツを通じた子供からお年寄りまで世代をこえて皆が共存できる街づくり」をめざし、卓球や水泳教室等の定例教室や大会等を実施している。
NPO法人 SSC谷原アルファ	H14.8	総合体育館を拠点とし、平成19年度の会員数は387名。子供の心身の健全な発育に主眼を置き、レスリング、チアリーディング、バレーボール、野外活動等を実施している。
NPO法人 スポーツコミュニティー桜	H14.9	桜台体育館を拠点とし、平成19年度の会員数は103名。より気軽に生涯にわたり文化・スポーツを楽しむ機会と環境を提供するため、水泳事業、ウォーキング、陶芸教室等を実施している。
NPO法人 光が丘総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ	H14.9	光が丘体育館を拠点とし、平成19年度の会員数は427名。明るく、豊かな地域社会の形成への貢献および生涯スポーツ・レクリエーションの振興を目的に女子サッカーやフットサルおよびチアダンス等を実施している。
NPO法人 総合型地域スポーツクラブ 平和台	H14.10	平和台体育館を拠点とし、平成19年度の会員数は528名。様々なスポーツや文化活動が楽しめ、地域の人々が日常的に集うクラブ等をめざし、キッズスイミングクラブ、親子de体操教室等を実施している。
NPO法人 スポーツクラブホワイエ 上石神井	H14.12	上石神井体育館を拠点とし、平成19年度の会員数は150名。地域の世代間交流の促進や地域コミュニティの育成をめざし、ソフトバレーボール、卓球、バドミントン等の定例活動や、スポーツ教室を実施している。
豊玉・中村地域スポーツクラブ「クラブ プラッツ」	H21.2	中村南スポーツ交流センターを拠点とし、平成21年に発足。「みんながあつまる、みんなで元気になる『地域(まち)づくり』」をめざし、地域の方々にスポーツ・文化活動を実施している。「プラッツ」とはドイツ語で「広場」を表す。

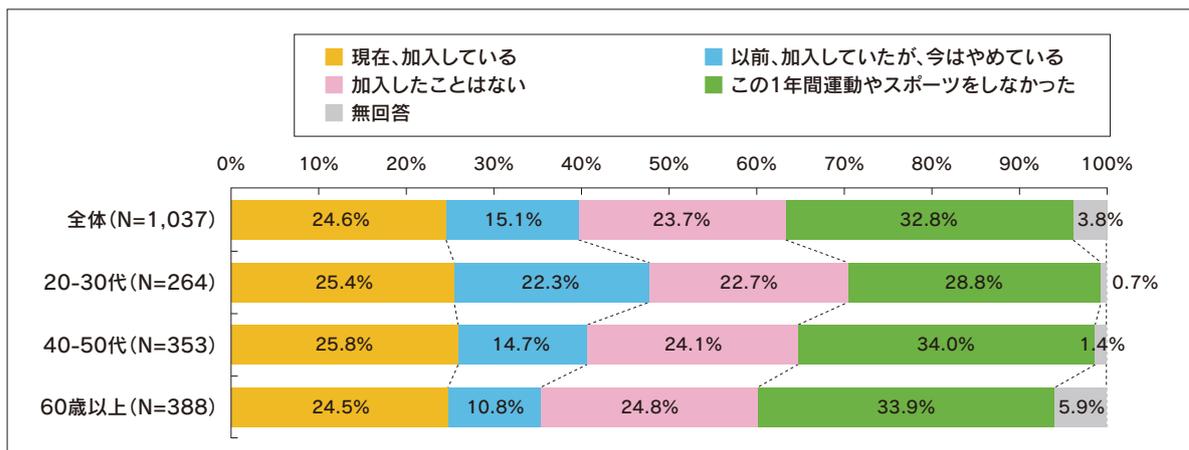
(2) クラブ、サークル、同好会等の団体への加入状況

団体への加入状況については、現在、クラブやサークルに所属している区民の割合は24.6%、加入したことがない区民の割合は23.7%でした。この割合は、年代別にみても、ほぼ同じ割合となっています。一方で、「以前、加入していたが、今はやめている」の割合は、20代、30代が22.3%、40代、50代が14.7%、60歳以上が10.8%と、年代が高いほど割合が低くなります。

クラブやサークルの種類については、20代、30代では「民間（商業）のクラブやサークル」（49.2%）や「職場や学校のクラブやサークル」（40.3%）の割合が高く、地域で活動する割合が低くなっています。40代、50代では、「民間（商業）のクラブやサークル」の割合が半数を超えていますが、一方で「地域のクラブやサークル」も40%を超えるなど、地域での活動も増えてきます。さらに60歳以上になると「地域のクラブやサークル」の割合が半数を超え、地域で活動することが主となってきます。

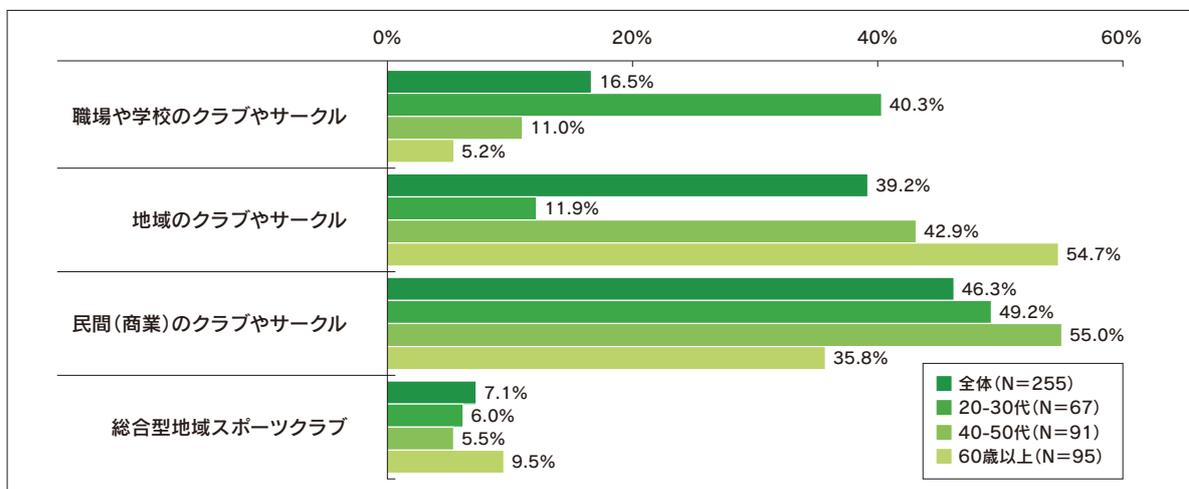
年代や目的等によって加入団体が異なると考えられることから、スポーツに関連する様々な団体の連携を強化することで、効果的なスポーツ振興を図ることができると考えます。

図表 3-12 クラブやサークルへの加入



出所：スポーツに関する区民意識意向調査（平成18年度）

図表 3-13 クラブやサークルの形態



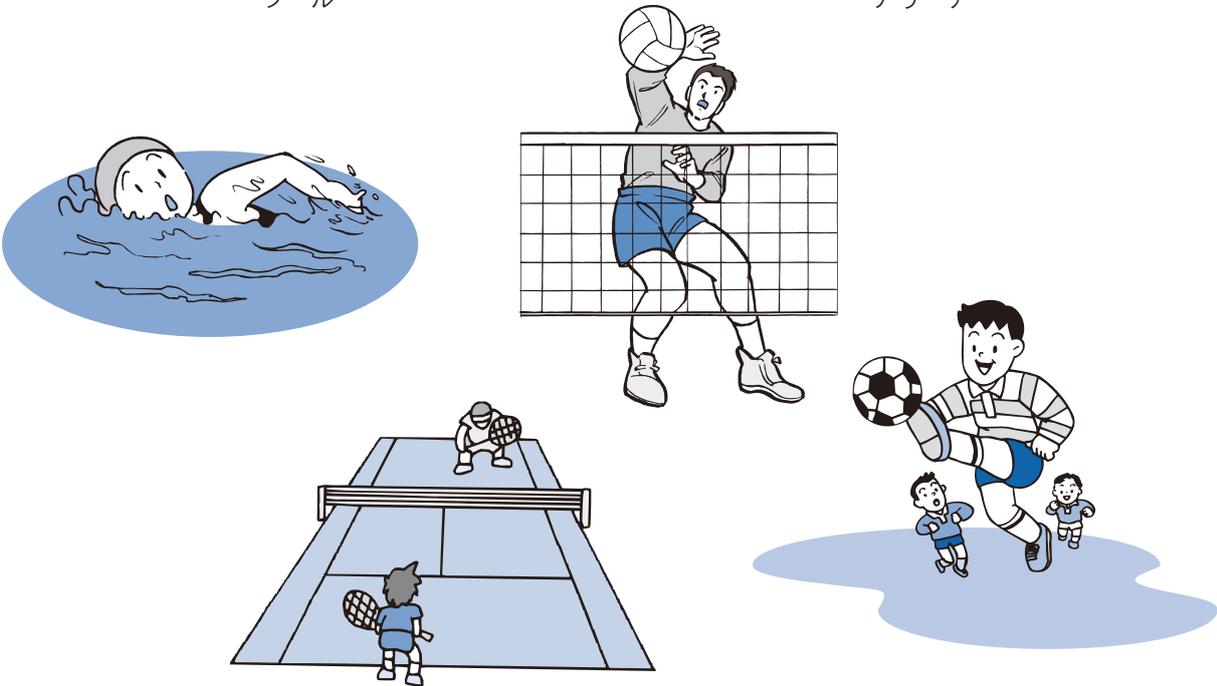
出所：スポーツに関する区民意識意向調査（平成18年度）



プール



アリーナ



庭球場



運動場